

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店 〔酒〕(店長)	来客数の動き	・観光客が安定している。
	○	商店街(代表者)	販売量の動き	・現在新型コロナウイルス感染症の状況が少し落ち着いてきているが、業種によって2極化している。物販業の方が厳しい状況で、飲食業は少しだけ良くなっているようである。
	○	百貨店(経営担当)	販売量の動き	・年末商戦により、お歳暮やクリスマスギフト需要が高まっている。
	○	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・前月並みに来客数と売上が増加している。
	○	その他専門店 〔陶器〕(製造)	販売量の動き	・前月辺りから年末に向けての発注が増えており忙しい。この1か月で大幅に伸びたことはない。
	○	一般レストラン (代表者)	単価の動き	・年末のお陰で客単価が上がっている。また、忘年会が増えている。
	○	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売数が前年比130%と大きく伸ばすことができている。家族での購入が目立ち、景気が回復傾向にあるとみられる。
	○	住宅販売会社 (役員)	単価の動き	・高価格の新築住宅も徐々に売れてきており、建築費の高騰もある程度だが許容されつつある。
	□	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・今月は、3か月前ほどではないが来客数が前年を上回っており、クリスマス需要も好調に推移している。
	□	コンビニ(副店長)	来客数の動き	・催事が通常どおり行われるようになってきた。以前よりも売上は良くなるものの、商品単価自体の値上げであって、来客数自体にさほど変化はない。
	□	コンビニ(経営企画担当)	来客数の動き	・3か月前と比べると、前年比で客足の伸びは落ち着いてきているものの、客足自体は減少に転じていない。天候や気温に左右されているが、景気による客足の変化ではないようである。
	□	乗用車販売店 (経理担当)	来客数の動き	・来客数に特に大きな動きはない。
	□	その他飲食〔居酒屋〕 (経営者)	お客様の様子	・アフターコロナの12月でかなり期待していたが、週末早い時間は予約を断るほど集中していても、平日の夜9時以降は周りを見ても閑散としている。アルコールチェックの義務化で平日遅くまで深酒することがなくなっている。
	□	観光型ホテル (代表取締役)	来客数の動き	・宿泊は修学旅行の利用があり前年よりも増えているが、宴会に関しては人手不足もあり、前年よりも悪くなっている。全体では変わっていない。
	□	旅行代理店(マネージャー)	単価の動き	・旅行単価が高くなり、予約成立と不成立の2極化が目立つようになってきている。
	□	住宅販売会社 (代表取締役)	お客様の様子	・戸建て住宅や投資物件への建築相談が減少傾向にある。
	▲	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・客の数が減っていると実感している。
	▲	乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・年末商戦は、前年より客の動きが鈍い。
	▲	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・ホテルの9月の販売室数が前年比7%減少なのに対し、12月の販売室数は同比20%減少と、マイナス幅が大きくなっている。
	×	家電量販店(営業担当)	来客数の動き	・11～12月は来客数が前年比95%前後で推移している。全体的な値上がりの影響で、高価格帯である家電の消費意欲は低くなっている印象を受ける。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	－	－	－
	○	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・12月に入り量販店や飲食業関連への売上が増加している。道路もふだんより随分混雑するようになっている。
	○	窯業土石業(取締役)	受注量や販売量の動き	・見積依頼は3か月前と比較すると、公共、民間工事共に若干増加傾向にある。
	□	会計事務所(所長)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、人流、物流が活発化し経済活動が回復傾向にあると認識している。

	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規の契約及び受注が止まったままである。
	×	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・県内経済は全体的に活気が出てきており、その波及効果で既存の派遣先からの追加依頼が多くなり、また、新規先からの派遣依頼も出てきている。
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	採用者数の動き	・前年と比較すると、2025年卒向けの求人は採用数を増やしている企業が多いように見受けられる。
	□	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求職者の動きが鈍く、人手不足感は否めない。1月からの求職者の動向を見極めたい。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数について、前年同月比横ばい傾向が続いている。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・年末年始の一時的な消費意欲によるものである。
	▲	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・3か月前の9月が過去3年間で最も求人数が多かったため、比較すると今月の減少幅は大きい。また、例年減少する時期ではあるものの、前年、前々年の同月の求人数には達していない状況である。
	×	—	—	—